

流れ藻漂流予測 速報(5)

鹿児島大学水産学部水圏科学分野

2023年3月6日

鹿大水産学部練習船「かごしま丸」により、2月17日、海上を漂流中の3個の流れ藻にペットボトル型ブイを取り付けて、その漂流経路を人工衛星ARGOSシステムで追跡しています。

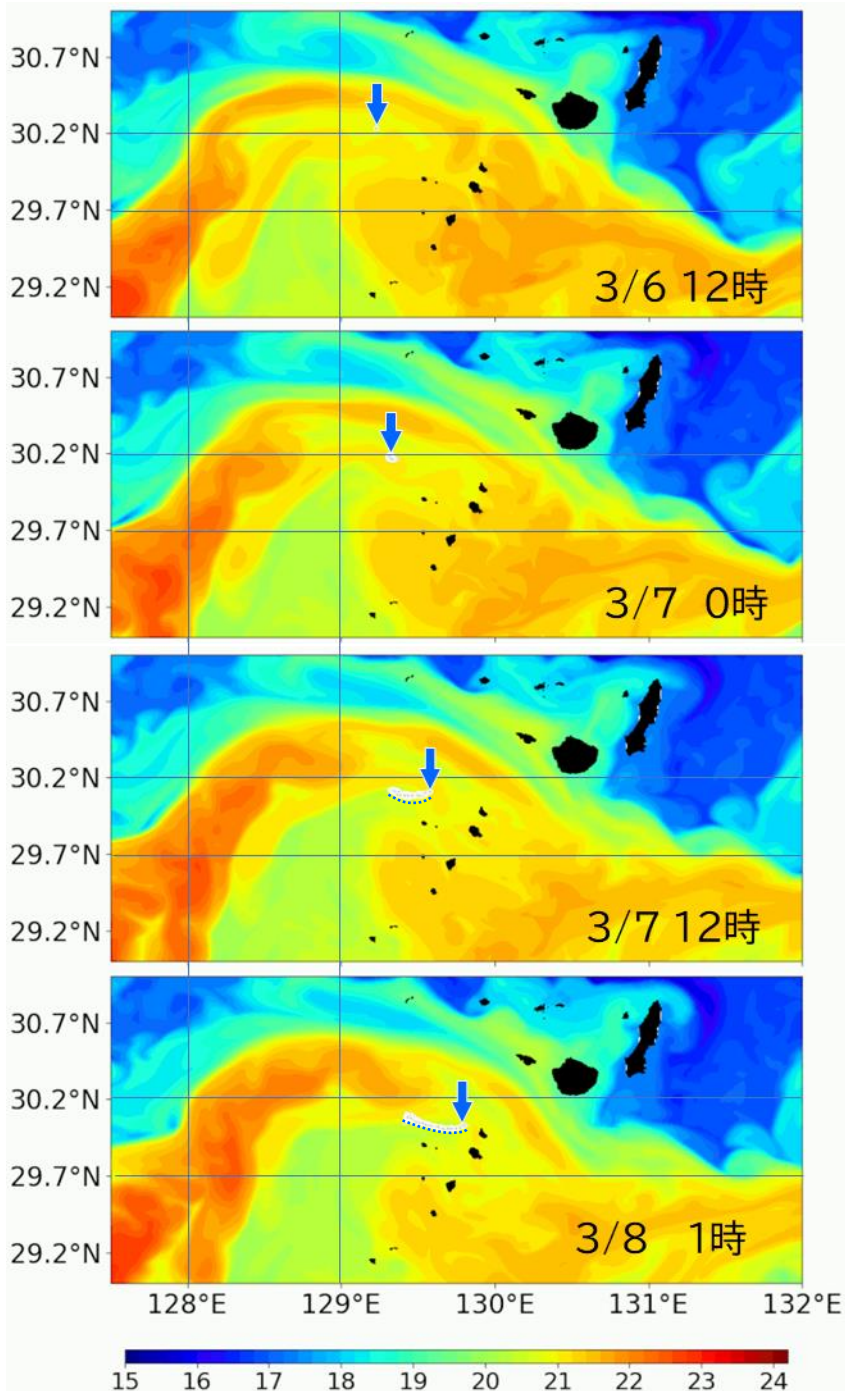
その内の1つのブイが、黒潮の本流に取り込まれ流下方向に移動しています(詳細は「[流れ藻観測速報R5_018](#)」を参照)。これを受けて、海況予報モデル(DREAMS_E)により、このブイの**37時間先の漂流予報**を行いましたので、結果を公開します。

解説:3月6日12時(日本時間)からの漂流経路を、**37時間先(3月8日1時)**まで予報しています。予測モデルでは、1000個の粒子を追跡します。海流(潮流を含む)と波の効果(風速の0.5%の速度効果)で粒子は移動します。

注意:1000個という粒子数は、流れ藻集団の規模に関連してはおりません。流れ場の分散の度合い(まとまって移動するか、バラバラになるか)を評価するために設定しています。

3月6日12時時点の漂流ブイの位置からの予測結果です。[流れ藻観測速報R5_018](#)で報告した通り、トカラ海峡の上流側で、漂流ブイが北風の影響で黒潮強流帯の南に移動しました。そのため、予測モデルの結果は、漂流ブイは3月8日午前中に口之島周辺を通過する予報になりました。また、予測モデルは、粒子群は強流帯南部の潮目に沿って引き伸ばされるように移動することを予測しています。

予測精度については、予測モデルの流速分布の再現性と風の効果の微妙な誤差に左右されます。予測が当たらないこともありますので、ご注意ください。



漂流予測図

流れ藻を模倣した粒子の移動・分散(日本時間 7日12時~8日1時までの予測)。カラーは海面水温(赤の高水温帯が黒潮)。

※この図は漂流予測の動画から開始時と終了時の画像をキャプチャしたもの。[動画はwebページ](#)に掲載。